

## 願照寺本堂障壁画の保存処置

### Preservation Treatment of Wall Paintings at Ganshoji temple

■ 齋藤 晴香 Haruka Saito

文化財保存修復研究所 研究員

*Researcher of Institute for Conservation of Cultural Property, Aichi University of the Arts*

#### 作業概要

- 場所:願照寺(愛知県岡崎市袖越町)
- 内容:本堂耐震工事に際した壁画及び欄間彩色等の保存、修繕  
耐震壁に置換される部分の貼り付け絵は取り外し、修復研究所にて抜本修理を行うものとし、  
その他の壁面、柱、欄間等については現地で剥落止めを中心とした保存処置を施した。
- 作業期間:2018年 3月

#### 1. 処置前状況

- 1) 壁面板地への直彩色、紙本貼付が混在している。
- 2) 膠着力の低下により絵の具の浮き、剥落がみられる(図1)。
- 3) 蓮弁や牡丹などの貼り付け部分が落下している。
- 4) 本紙に亀裂やめくれが生じている(図2)。
- 5) 箔が下地ごとめくれ上がり、埃が堆積し鑑賞の妨げとなっている(図3)。



図2



図1



図3

## 2. 処置方法

- 1) 羊毛刷毛にて全体の埃を払った(図4)。
- 2) 耐震壁置換個所の壁画を取り外した(図5)。
- 3) 落下していた蓮弁等を、小麦でんぷん糊(以下新糊という)を用い貼り戻した。
- 4) 2%の膠液に布海苔抽出液を混合したものを彩色箇所  
に塗布し、剥落止めを行った(図6)。
- 5) 本紙の亀裂、めくれ箇所  
に新糊を差し、接着した(図7、8)。
- 6) 箔のめくれ箇所に布海苔を塗布し緩めたのち、薄めた新糊で接着した。



図6



図4



図7 (処置前)



図5



図8 (処置後)